

『聖書と精神医療研究会』

2015 年度総会・シンポジウム

5月19日(火)午後5時より(総会) 6時30分より(シンポジウム)

テーマ：「自立と共生を考える」

～映画「かがみ」を通して見えるもの～

内容：「かがみ」の作品紹介動画上映、齋藤一男氏による発題、その後、パネルディスカッション



齋藤一男・プロフィール：映画監督。1974年千葉県生まれ。日本大学国際関係学部卒業。映像制作会社勤務後フリーに。2005年、受洗と共に、キリスト教的価値観に基づく映画製作団体「ロゴスフィルム」を設立。また映画製作と並行して働く知的障がいを抱えた方の集う作業所とグループホームの仕事で感じることを、考えることをもとにこの「かがみ」を製作した。この映画を通して教会や信仰者に共生と自立の意味を提示できればと願っている(ロゴスフィルム HP <http://logosfilm.jp>)。



17:00～研究会員による総会・礼拝 18:30～シンポジウム

シンポジウムはどなたでも御参加できます。

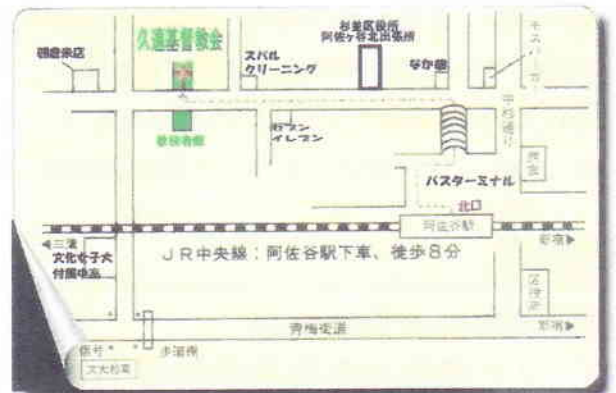
参加費は無料ですが、席上献金をいたします。また当日ジャーナル等の物販販売を行いません。

場所：久遠キリスト教会

〒166-0001 東京都杉並区阿佐谷北 2-25-8

TEL 03-3338-0600 Fax 3336-6007

阿佐ヶ谷駅北口より、徒歩8分



2015 年度・聖書と精神医療研究会の活動予定

年間研究テーマ「不寛容な時代のストレスマネジメント」

研究会の日時・場所等は聖書と精神医療研究会のホームページ等で確認してください。

URL [聖書と精神医療.com](http://www.seishu.com) 上山 (043-273-1737)



あらすじ

7つ違いの兄弟、秋生と菜生。
二人は両親を亡くしてから別々に暮らしていたが…
ある朝「兄が捕まった」という警察からの電話を機に再会する。
秋生はしばらく会わないうちに精神障がい患っていた。
兄の変わり果てた姿と毎週通う礼拝でのメッセージに背中をおされ、
菜生は兄との同居を決意する。
教会や周囲の協力のもと、二人の久しぶりの共同生活が始まる。

ロゴスフィルム 齋藤一男監督プロフィール

【経歴】

1974年生まれ。千葉県出身。日本大学国際関係学部卒業。映像制作会社勤務後フリーに。

2004年、キリスト教的価値観に基づく映画制作団体「ロゴスフィルム」を設立。

2005年中野バプテスト教会にて受洗。2008年よりロゴス教会として自宅を開放して開拓を始め、現在に至る。

また並行して2007年より知的障がいを抱えた方の集う作業所とグループホームでも働いている。

映画を見た人の感想

- ・精神障がいのある方の苦悩、その家族や友達の苦悩がとても良く伝わってきました。
- ・御言葉の力、障害者は受けるだけではないということ、共生と自立の過程が見事に描かれていると思いました。
- ・「貧しい者は幸いです」という御言葉をすごく考えさせられました。
- ・多くのキリスト教会、キリスト教的価値観の障がい者施設、学校などで上映していただけたらうれしいです。

推薦文

東京基督教大学神学部 キリスト教福祉学専攻準教授 片岡政子氏

この映画は、統合失調症を患う兄と7つ年下の妹の日常生活を通して「障がい者と共に生きるとは」「障がい者の自立を助けるとは」どういうことかを自然な形で提示している映画です。この映画の特徴は、実際の障がい者を主役に起用し、脇役も牧師や信徒、障がい者仲間などが出演しておりドキュメンタリータッチの優れた映画です。庭の畑の野菜の成長や景色の移り変わりを見ると心が癒され、この映画が長期にわたって丁寧に制作されていることが覗えます。ともすれば私たちは障がい者に対して見えない壁を作ってしまい自然な形で接することができないことがあります。この映画はそのような自分自身を映し出してくれるに違いないでしょう。教会関係者、医療・介護従事者、障がい者家族などに強くお勧めします。

